

〈調査報告〉

松島トミさんの口承文芸 6

北海道立アイヌ民族文化研究センター

研究紀要

第10号

2004年3月25日発行

大谷 洋一

〈調査報告〉

松島トミさんの口承文芸 6

大谷 洋一

- 目次
1. まえがき
 2. 凡例
 3. クモと結婚した白キツネのウウェペケレ
 - 3-1 語り手によるあらすじ
 - 3-2 本文
 4. ポロトを守る神の子のウウェペケレ
 - 4-1 語り手によるあらすじ
 - 4-2 本文

1. まえがき

本稿は、1922（大正11）年に門別町の厚別川流域で生まれ育った松島トミ氏から採録したウウェペケレ *uwepeker*（散文説話）と呼ぶ口承文芸2編のアイヌ語原文テキストとその日本語訳である。松島氏の生い立ちについては、簡単ではあるが当センター研究紀要の1号（1995年）に記している。本報告2編の標題は、筆者が便宜的に付したものである。松島氏自身が特定の物語を指し示す場合、通常は登場する動物や植物のアイヌ語名称を先に付けて「〇〇のウウェペケレ」ということが多い。

1編目の「クモと結婚した白キツネのウウェペケレ」を要約すると、「あるところに美しいと評判の女がいた。その女が「あの世にいる魚を捕まえて来た者ならば、結婚してもよい」と言ったので、妻にしたいと思った神々が次々とあの世へ行ったのであるが、誰も戻って来た者はいないという噂を私は聞いた。その女の高慢な態度が気に食わなかった私は、彼女の前に地中から飛び出して、「お前があの世の魚を食べたいと言ったため、たくさんの神が死んだ。これがお前の食べたかった魚だ。食え」と言いながら魚を投げつけた。そして女を叩いて、家が燃えてしまったように思わせる幻覚を見せた。女を苦しめた数日後、その女が荷物を背負って我家へやって来た。私は再び幻術をかけて、家中に雑草が生えているかのように思わせた。私は炉端で横になって女を無視していたが、女は家を出ることなく部屋の隅にいた。私は女が哀れに思えてきたので幻術を解き、家が立派であることを見せると女は泣き続けた。私が「悪いことをしたお前を両親共々あの世へ蹴落としてやる」と叱りつけると、女は改心することを誓って謝ったので、私はクモの女神を妻にして、たくさんの子

供を持った」という内容を主人公の白キツネが自叙する形式を持ったウウエペケレである。

このウウエペケレは、女の正体がクモの女神であることや主人公が白キツネの神であることを本文の一番最後になるまで聞き手に知らせない構成になっている。これは、動物や植物が自叙する形式を持ったカムイユカラ *kamuyyukar* (神謡) の語り終え方と同様なので、もともとは節の付いたカムイユカラであったものを散文で語るようになった可能性がある。カムイユカラで語った場合は、主人公の動植物の鳴き声などを示すサケヘ *sakehe* (折り返しの句) が付いているので、聞き手は人間の物語ではないことを最初から知りつつ鑑賞することができる。しかし、この話のようにサケヘが外された散文で語られた場合、大抵の聞き手は人間の体験談として聞いてしまうことが多い。

この話の類話は、平取町荷負出身の貝沢こきん氏が1963(昭和38)年に二風谷で語ったものを萱野茂氏が採録している⁽¹⁾。ストーリーの展開は、松島氏のものとはほぼ同じであるが細かい部分の言い回しはより詳しく、語り始めの部分で「クモの女神」のことを表す「スプ・カ・ウン・マツ」あるいは「スプキ・カ・ウン・マツ」(共にすすきの葉の上の女の意)⁽²⁾という隠語のような言葉で表現⁽²⁾されている。聞き手の誰もがわかる「クモ」や「白キツネ」の一般的なアイヌ語名称⁽³⁾を本文の語り終える箇所で行うのは貝沢氏も松島氏も同じである。松島氏の場合は、「動植物が主人公のウウエペケレを語る際、聞き手が人間の話と思い込んで同情させるために話の途中では主人公の正体をわざと明かさない」という主旨の説明があり、主人公の素性を意図的に隠して語ったことを認めている⁽⁴⁾。

次に第2編の「ポロトを守る神の子のウウエペケレ」を要約すると、「和人の国の真ん中で私は母と一緒に暮らしていた。私はクリを食べさせられて大事に育てられた。ある日、母が泣きながらいうには「あなたの父はポロトを守る神なのですが、夫が浮気したので私は怒って家出をしたのです。この村に着くと、あなたを身ごもっていたことに気づいたのです。今まであなたを育ててきましたが、もう父親のところへ行きなさい。袋にクリを入れて、ポップシというところで半分蒔いて、その残りは平取村で蒔きなさい」というのであった。私は別れ難くて泣いていたが、言われたとおりに出発した。最初に会ったポップシのお爺さんは、平取へ行くように言われたので、クリを蒔いてから平取へ向かった。平取の神様は、父がいるポロト村の大きな家に案内してくれた。集まっている神々の中で、父は自分の引退後の後継ぎを誰にしようかと悩んでいた。私が息子と知った父は喜んで「ここを息子に任せる」と言って、次の朝、大きな鳥に変身して天にのぼった。別れを悲しんでいた私は、平取の神に励まされてポロトを守る神となった。今では、私が蒔いたクリがあちこちに増えているので、和人もアイヌも遠慮せずに食べなさい」という内容について、ポロトを守る神の子が自叙する形式を持ったウウエペケレである。

(1) 萱野茂『ウエペケレ集大成 第一巻』アルドオ、1974。

(2) この言葉がクモを表すことを松島氏は知らなかった。

(3) クモのことを沙流川筋でヤオシケツ *yaoskep*、厚別川筋でヤスケツ *yaskep* あるいはヤスケツ カムイ *yaskep kamuy* という。白キツネのアイヌ語名称は両地域とも同じである。

(4) 松島氏の語ったウウエペケレの中で特に「ヨノコのウウエペケレ」(CC000799)は、主人公の素性を隠しておくことで面白みが増している。

この物語の類話は、比較的記録が多いのであるが、採録地は北海道西南部の胆振・日高地方に限られている⁽⁵⁾。伝承者を採録年代別にみると、登別市の金成マツ（1954年以前の採録）氏⁽⁶⁾、門別町（沙流川筋）の鳩沢ふじの（1955年、1961年採録⁽⁷⁾）氏と平賀サダモ（1961年採録）氏⁽⁸⁾、平取町の川上まつ子（1985年採録）氏⁽⁹⁾、門別町（厚別川筋）の松島トミ（1997年採録）氏⁽¹⁰⁾の順になる。この物語では、少年が神として成長する姿を物語っていると同時に、北海道に生えているクリの由来を説いている。北海道でクリが生えているのは渡島・後志・石狩・胆振・日高地方なので⁽¹¹⁾、この話の伝承地域と一致している。主人公である少年の父親の居場所は、どの伝承も「ポロシリ（大きな山）」である。松島氏もこのウエペケレを語る前の会話やあらすじの中で、そう述べていたが、アイヌ語原文の中ではポロシリではなく、その山上にあるとされる「ポロト（大きな沼）」という場所のアイヌ語が出現するのみである。筆者はそれに従い、主人公を「ポロトを守る神の子」として標題を付している。主人公が目的地へ着くまでの経由地は、金成氏がアヨロの一ヶ所だけであるが、鳩沢氏はアヨロとピラウトゥル、平賀氏はフップシとピラトゥル、川上氏はウップシとピラウトゥル、松島氏はポップシとピラトゥルというように二つの場所名をあげている。どの伝承者もピラウトゥルやピラトゥルを、現在の平取と認識されている⁽¹²⁾。

類話の語り方をみると、金成氏は「カオル」というサケへ（折り返しの句）を付けて節にのせて語っている。鳩沢氏は、最初の採録では研究者の求めに応じて散文で語っていたのであるが、2度目の採録で「カーオーリー」⁽¹³⁾というサケへを付けて節にのせて語っている。川上氏もこの物語は本来、「カムイユーカラ（神謡）」で語られるものと述べている。本来は神謡として伝承されていたものであるが、松島氏自身は神謡の形で聞いた記憶はないと述べられている。

本報告のウエペケレ2編の採録の経緯は、以下のとおりである。採録した音声資料は北海道立アイヌ民族文化研究センターが保管する。

- ①幼少の頃、門別町の厚別川流域で地元の古老⁽¹⁴⁾から松島トミ氏が聞いた。
- ②1996（平成8）年頃、門別町豊田において、松島氏と筆者が『ウエペケレ集大成 第一巻』に付

(5) 『平成8年度アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査XVI）』北海道教育委員会（1997）に平取町荷負出身の黒川セツ氏が語ったあらすじが掲載されている。

(6) 知里真志保「アイヌの神謡」『北方文化研究報告第9輯』北海道大学、1954。ここに日本語訳のみが掲載され、アイヌ語原文は、知里真志保『知里ノート』北海道立図書館所蔵マイクロフィルムにある。

(7) 1955年採録は田村すず子『アイヌ語音声資料I』早稲田大学語学教育研究所、1984。1961年採録は門別町郷土史研究会『沙流アイヌの歌謡—録音資料目録とその解説—』1966、テープ番号（13—41）。

(8) 萱野茂『ウエペケレ集大成 第一巻』アルドオ、1974。

(9) 伊藤裕満「川上まつ子唄のウエペケレーポロシルンカムイになった少年—」『アイヌ民族博物館研究報告創刊号』アイヌ民族博物館、1986。

(10) 当センター採録資料 CC000391。

(11) 宮部金吾・工藤祐舜『普及版北海道主要樹木図譜』北海道大学図書刊行会、1986。

(12) この地名のみは日本語訳などで漢字を用いた。

(13) 久保寺逸彦『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店（1977）所収「聖伝12 自叙神未詳」にka ori（カーオリ）という似たサケへのオイナ（聖伝）が掲載されている。

(14) 松島氏に数々の口承文芸を聞かせてくれたのは、海馬沢ウヤベ、海馬沢ウカス、海馬沢コモネヤ、海馬沢エシリカ、エアンテカンなどの地元に住む女性である。

いている録音テープで本報告の2編と同じストーリーのウウエペケレと一緒に聞いた。

- ③1997 (平成9) 年10月17日、門別町豊田において、松島トミ氏から「クモと結婚した白キツネのウウエペケレ」と「ポロトを守る神の子のウウエペケレ」のアイヌ語原文を筆者が採録した (音声資料 CC000391)。この場の同席者は、鍋沢キリ氏 (同町出身) と上田トシ氏 (平取町出身) である。
- ④2001 (平成13) 年10月27日、門別町豊田において、松島トミ氏から本報告の日本語訳2編を採録した (音声資料 CC001185)。この場には近所に住む女性1名が同席している。

松島氏が思い出されて語った10編の口承文芸について、今回で一通りの報告を終えるので、今まで採録するに至った全体的な流れをみってみる。1994 (平成6) 年9月上旬、北海道ウタリ協会門別支部の先祖供養の儀式の場で初めてお会いして採録調査を依頼した。同年9月30日に松島氏の自宅でイヨンルイカ *iyonruyka* (子守歌) とメノコユカラ *menokoyukar* (女性の叙事詩) を採録させていただいた。しかし、松島氏は出来に不満があるので採りなおしたいと希望されたので、2ヵ月後の11月30日に再び録音した。松島氏は当初、「2編しか覚えていない」と言われていたが、9月の初調査では、昔のことをいろいろ話されているうちにオンネパシクル *onne paskur* という短い言葉遊びを思い出された。幼少時の松島氏は、近所の古老からたくさんのお話を聞いていたというので、その記憶が蘇ることを期待した筆者は松島氏にカムイユカラ (神話) を演じて聞かせたり、公刊されているウウエペケレやカムイユカラの録音テープと一緒に聞いたりした⁽¹⁵⁾。また、1996 (平成8) 年3月8日には、平取町に住む上田トシ氏と鶴川町の新井田セイノ氏と引き合わせ、お互いの持ち歌や口承文芸を演じ合う機会をもうけた。このような交流を積み重ねた後の松島氏は、積極的に口承文芸を思い出さろうとしてくれた。ウウエペケレについては、「今まで聞くばかりで語ったことはない」と言われていたが、練習を積み重ねられてアイヌ語の言い回しに心配がなくなったとき、初めて筆者に採録が許された。

このようにして松島氏が語られたウウエペケレ7編のうち4編は、萱野茂『ウエペケレ集大成』アルドオ (1974年) に掲載してあるものと同様である。松島氏はこれらについて、厚別川流域 (門別町厚賀) でも伝承されていたものであると述べている。筆者が聞かせた録音テープがきっかけになって思い出されたのであるから、内容はかなり録音テープの影響を受けていると思われる。しかし、松島氏の語ったものは、地元のアイヌ語方言に言い換えられていることや本人の解釈等が含まれることから、採録例が少なかった地域の貴重な資料であることにかわりない。今後は、これらの資料の公開準備を進めるとともに意味の不明確な言葉等について補足的な調査を継続していきたい。

松島氏から採録させていただいた口承文芸のテキストと公開状況の一覧を以下に記す⁽¹⁶⁾。なお、公開資料番号の付いているものは、当センター閲覧コーナーで試聴が可能である。

(15) 片山龍峯編『カムイユカラ』片山言語文化研究所 (1995) に付いていた神話収録のカセットテープ。

(16) 表の「口承文芸の標題」は、研究紀要に記載したものと同一である。

原資料 番号	採録年月日	口承文芸の 標題	研究紀要 号数	公開資料 番号
CC000315	1994年9月30日	オンネパシクル	1号	CC800004
CC000325	1994年11月30日	イヨソルイカ	1号	CC800005
CC000325	1994年11月30日	メノユエカラ	1号	CC800005
CC000799	1998年9月30日	ヨノコのウエベケレ	6号	CC800026
CC000924	1999年9月24日	マタタンブのウエベケレ	6号	CC800027
CC000995	2000年3月26日	イワウのウエベケレ	7号	
CC000395	1998年3月29日	オオカミの木彫りを持つ女を救った男のウエベケレ	8号	
CC000394	1998年3月29日	ハリギリで舟を作った男のウエベケレ	9号	
CC000391	1997年10月17日	クモと結婚した白キツネのウエベケレ	10号	
CC000391	1997年10月17日	ポロトを守る神の子のウエベケレ	10号	

※公開資料番号が空白な資料は、全て平成17年度に公開を予定して準備中である。

口承文芸をお聞かせていただいた松島トミ氏をはじめ、原稿を査読していただいた方々からも数多くのご教示をいただいたことを記して感謝申しあげる。

2. 凡例

- (1) 本文は、二段組として、左側にアイヌ語による語りの部分、右側にその日本語訳を記した。
- (2) アイヌ語のカタカナ表記は、なるべく実際の発音に近いように記した。そのため、音節末の s は小文字の「シ」や「ス」、音節末の r の場合は小文字の「ラ、リ、ル、レ、ロ」を用いて表記した。言いさしも記した。
- (3) アイヌ語のローマ字表記は、音素交替によって変化した音とみなしたものを記さなかった。話し手の言い誤りは、話し手が言い直した語形に置き換えた。
- (4) ローマ字表記の大文字は日本語、小文字はアイヌ語である。地名の場合は語頭のみ大文字とした。カタカナ表記では、アイヌ語原文中の日本語をひらがなで記した。
- (6) 「語り手によるあらすじ」では、補足事項等を（ ）内に記した。
- (7) 現時点で解釈が不確実な語句についてはその語尾に「??」を付けた。

3. クモと結婚した白キツネのウエベケレ

3-1 語り手によるあらすじ

は一、ある所に、凄くいい有名な女がいたんだとさ。
そして、したけ、もう、お嫁さんに、いろいろな神さんら、
貰いに来て、もったいぶって、もう、あの世さ行って、

魚捕って来ないば駄目だちって、かぶり振られてや、
行けば戻って来ない。そうして、いるのを見ている、
本当に腹くそ悪くてこんど、キツネの神さんがこんど、
ち、土ん中から出たみたいにして、したけこんど、びっくりこいて、
そうやってして、もう神さん皆そやってしてから、
あの世さ行かせてや。戻って来ないのを面白がって、
そやってしてんの、腹くそ悪くて、もう敵討ちしようと思って、
キツネはこんど、一所懸命になって、土ん中から出て来たみたいにして、
そうやってして、出て来たけ、びっくりこいてしまって、
そしたけ、あの世さ行って、魚持って来る人でないば、
絶対、その人の嫁さん、ならんちって、言ってるまだ、
こんど、腹くそ悪くなって、土ん中から入ったみたいに見せかけて、
そしてこんど、魚持って来て、土ん中からこんどまた出はって来たけ、
びっくりこいてしまって、もう、もうもうもう、どうもならん、
びっくりこいた格好見て、腹くそ悪くて、どうもならんからこんど、
目、ぶっ叩いたんだとよ、そしてしたけ、こんど、転がって、
そこらじゅう転がって歩いて、いたの見ながら、こんど帰って来て、
いたもの、それから、一週間か二週間たったんだか、ふっふふふ…、
こんど、まかない物を、袋に入れて、みんな持って来たんだと、
持って、来たのを見て、それでも知らん顔をして、
背中あぶりしていたけ、来てこんど、なー、荷物置いて、したけど、
何も言わないで、そやって寝ていた、こんど、もう、
腹くそ悪いもんだから、こんど、家のくるりも、
草だらけに見せてや、本当にもう、そやってして、
目にあわす算段しても、帰りもしないで、そやってしている、
夜になれば、自分のまかない物、ま、枕して、寝てる、
それでも知らん顔して、もう何ヵ月いたんだかわかんないけども、
そういうふうになっているのを見た、こんど、もう家ん中じゅう、ぐるい、
草伸びたみたいに、そして見せかけてや、すれば一所懸命、
その草むしり、そうゆうふうにしてや、毎日、そうやってしてや、
夜になれば、そやってして、自分のまかない、ま、枕してや寝てる、
こんどあんまり、可哀想になってこんど、結婚申し込んだんだとよ、ふっふ…
そして、こんど一緒になって、こんど、家も、こんどもカネチセ (立派な家)、
それこそ、二階建ての、ふっふふふ…、いい家に見せて、そして、
一緒になって、これからはそういう悪い事、悪さしないからってって、

謝りしたもんだから、そういう、こんど、は一、一緒になって、
子供出来て、それで、キツネやら、トンボ⁽¹⁷⁾ やらいっぱい、子供できて、
良い暮らししたから、言うって、キツネとトンボと言ったとよ。

3-2 本文

は一、その始めのな、部落がなんぼ思い出しても今のとこ思い出せなくて。

は一、シネアン ウシケタ ソナーノ
(HA) sine an uske ta sonno あるところに本当に
ピリーカ メノコ アン ルウェネ ヒネ
pirka menoko an ruwe ne hine 美しい女が暮らしていて、
カムイ オッタ ヤエコサンカプ⁽¹⁸⁾
kamuy or ta yaykotomka p 神の世界で自分に相応しい相手が
イサムノ ソナーノ アスルアス
isam no sonno asur as いないような、とても評判の
ピリーカ メノコ、アン ルウェ ネポ⁽¹⁹⁾ …、
pirka menoko an ruwe, (nepo…) 美しい女が暮らしていた。
カムイ ウタラ マチヒに コンルスイ クスー
kamuy utar macihi NI kor rusuy kusu 神々は彼女を妻にしくなって
パイェパイェ、エネ ハウエアニ
payepa hike ene hawe an hi 行くと、このように言うのであった。
ポクナ モシッタ⁽²⁰⁾ エチパイェ ワ
“pokna mosir ta eci=paye wa 「お前があので世へ行って
さかな一、チェブ⁽²¹⁾、エチウク ワ
SAKANA, cep eci=uk wa 魚を捕って
エチア…、アッキ すれば一
eci=arki SUREBA 来れたなら

(17) 「トンボ」は「クモ」の言い誤りである。

(18) 松島氏によると、ヤイコトムカプ yaykotomkap の言い誤りという。

(19) 松島氏によると、ネポという言葉は言いさしであるという。

(20) 松島氏によると、ポクナ モシリ pokna mosir を「あの世」と訳し、本人が夢の中であの世に行ったときのことを「トンネルのようなところを抜けると花畑があり、そこに幅10cm程の道がある。その道を歩いていくと亡くなった祖母や両親がいた。嬉しくて側へ行って声をかけたが誰も気づいてくれなかった。そのうちに大きな「閻魔様」が現れて「お前なんかの来る所じゃない。早く帰れ」と言われて泣く泣く帰ってきた。その話を近所の年寄りに話すと、お祓いに行くことを勧められたので、一人で巫者(トッスメノコ)の家に行ってお祓いを受けた」という。あの世の風景は、昔の年寄りから聞かされていたものと同じものであったという。

(21) 松島氏によると、チェブ cep は魚全般を指すがここでは「アキアジ(サケ)」のことであるという。

ホクネ アコルウエネー セコル	
hoku ne a=kor ruwe ne” sekor	夫にしてやる」と
ハウエアン コル アン ヤカイエ ワ	
hawean kor an yak a=ye wa	言っているといわれていて
もうー エアラキンーネアン アルシカ コル	
MOU earkinnean a=ruska kor	とても私は怒って
アナンペ アネー ヒ クス こんど	
an=an pe a=ne hi kusu KONDO	いたのであった。
その チェプ ウク クス	
SONO cep uk kusu	その魚を捕るために
パイェパ カムイ ウタル	
payepa kamuy utar	行った神々が
ポクナモシルン パイェパ ヒケ カ	
kamuy utar pokna mosir un payepa hike ka	あの世へ行っても
ホ、ホシツパ イサム ア、アスルフ	
(ho) hosippa isam (a) asuruhu	帰って来ないという噂を
アヌコル パテッ アナンペ アネ ヒケ (咳払い)	
a=nu kor patek an=an pe a=ne hike	聞いてばかりいた私であったが、
シネアント タ オカムキリ トイ トウム オルワ	
sine an to ta okamkir toy tum or wa	ある日、わざと土の中から
ソイネアン シリ アスカレ ⁽²²⁾	
soyne=an siri a=nukare,	私が外に飛び出る様子を見させた。
ネ メノコ アスカレ アクス	
ne menoko a=nukare akusu	その女へ私の姿を見せると
エアラキンーネー カムイヘー ウエンカムイヘ	
earkinne “kamuy he wen kamuy he	「神なのか？ 化物なのか？
エネ トイトウム ワ、チプス ⁽²³⁾ フミ アン セコル	
ene toy tum wa, sipusu humi an” sekor	このように土の中から飛び出すとは」と
ハウエアンコル ソンノ え、あ、あれしてるの	
hawean kor sonno (E, A) ARE SITERUNO	言って、とても驚いているのを
アヌカル コル アナンペ アネ	
a=nukar kor an=an pe a=ne	私は見ていた。

(22) 松島氏によると、主人公は実際に姿を現したのではなく、全て女に見させた幻覚であるという。

(23) 松島氏によるとチプスと聞こえる箇所は、シプス sipusu と言おうとしたというのでローマ字はそのように記した。

(上田) ほー、うーんー。

こん、エアヲキンネ こんど したもんだから

(KON) earkinne KONDO SITAMONDAKARA

シプスケアン⁽²⁴⁾ トイトウム オルワ

sipuske=an toy tum or wa

シプスアインネ⁽²⁵⁾ したもんだから、

sipusu=an hine SITAMONDAKARA,

はー、エネー ハウエアニ

(HA) ene hawean hi

アヌルスイ クス キアツ

“a=nu rusuy kusu ki a p

ナー ネノ⁽²⁶⁾ ウエンカムイヘー カムイヘ

na neno wen kamuy he kamuy he

エネワ エネ⁽²⁷⁾ ポクナモシルンー

e=ne wa ene pokna mosir un

パイェパ ワー チェツ ウク ワ エク クル

payepa wa cep uk wa ek kur

ホクネ アコル クス ハウエアナン コル

hoku ne a=kor kusu hawean=an kor

アナンベ エネー カムイヘ ウエンカムイヘ

an=an pe ene kamuy he wen kamuy he

エネ トイ トウム ワ シプニ シリアン

ene toy tum wa sipuni siri an

セコル ハウエアシ したり ヤイヌ したり

sekor hawean SITARI yaynu SITARI

キー コル エアラキンーネ アル、アルシカツ

ki kor earkinne (aru) a=ruska p

本当にそのように

飛び出した。土の中から

私が現れたものだから

彼女はこのように言った。

「私は聞きたいものだが、

どんな化物なのか？ 神なのか？

このように、あの世へ

行って魚を捕って来た者を

夫にするつもりだと私は言って

いたのであるが、神か、化物か、

このように土の中から現れるとは？」

と彼女が言ったり、思ったり

していると、本当に私は怒っていた

(24) シプスケアンのようにも聞こえるので松島氏に確認すると、シプスケアン sipuske=an と言い、次の行のシプスアイン sipusu=an と同じく「私が現れた」の意味であるという。

(25) シプスアイン アアインネのようにも聞こえたので松島氏に確認すると、シプスアイン ヒネ sipusu=an hine 「私が現れて」という。

(26) 松島氏によると、ナー ネノ na neno の意味は「どうして」である。

(27) 当初、エネワ エネ ene wa ene を「いったいどうなって」と記していたが、モニターの指摘により、松島氏に確認して修正した。

ネクス (咳払い) スイ トイトウム オル
 ne kusu suy toy tum or
 アオシマ ヒネ ポクナ モシッタ
 a=osma hine pokna mosir ta
 アルパアンネー チェブ アコル ワ エカン
 arpa=an hine cep a=kor wa ek=an

ので再び土の中に
 飛び込んで、あの世に
 行って魚を持って来た。

(上田) ふーん。

ネ スイ シ、シプース アンイネ こんど
 ne suy (si) sipusu=an hine KONDO
 サマケ ウン エエルスイ クス
 samake un “e=e rusuy kusu
 カムイ オピッタ エ、エライケツ ネクス
 kamuy opitta (e) e=rayke p ne kusu
 ホシッパ イサムベ ネクス エ セコル
 hosippa isam pe ne kusu e” sektor
 ハウェアナン コロ アオスラ ルウェネ
 hawean=an kor a=osura ruwe ne
 アア、オスラ (咳払い) サマケウン キ たけ
 (a) a=osura samake un ki TAKE
 ソノーノ エラムコエシカリ せ、して
 sonno eramkoesikari, (SE) SITE
 アン ルウェー アヌカルペネクス
 an ruwe a=nukar pe ne kusu
 こんど シキヒー アイ、アヤツキリ⁽²⁸⁾ ヒ
 KONDO sikihi (ay) a=yapkir?? hi??

また、私は飛び出して
 彼女のそばへ「お前が食いたがり、
 神々全てをお前が殺したので、
 彼らが帰って来ないのだから食べ」と
 言って、それを投げた。
 私がそれを捨てたそばで
 本当に女が驚いて
 いるのを私が見たので
 こんどは彼女の目を叩いた

(上田) は、あたたた、あー、おっかない。

(28) 松島氏によると、ヤツキリ yapkir について「投げる」ではなく「叩いた」と訳されたので、ここではそのとおりに訳した。すぐ後ろのヒ hi はヒネ hine を言いかけたものかもしれない。モニターから「ヤツキリ yapkir は自動詞なので、他動詞に付く人称接辞 a= が接頭しているのはおかしく、アエヤツキリ a=eyapkir の可能性がある」と指摘された。松島氏に確認すると、アヤツキリの語形しか用いないといわれている。

ヒネ こんど カルカルセ⁽²⁹⁾、ヤイカルカルセレ
 hine KONDO (karkarse) yaykarkarsere ので、彼女が転がった。
 アルカフ ネクス ヤイカルカルセレ コロ
 arka p ne kusu yaykarkarsere kor 痛くて転がって
 アンー シリ アヌカル コル、こんど (咳払い)
 an siri a=nukar kor KONDO いる様子を見ると今度は
 ネ アン チセヘ ウフイ、アウフイカレ⁽³⁰⁾
 ne an cisehe (uhuy) a=uhuyka その家を私が燃やした
 クス アヤイヌレ したけ
 kusu a=yaynure SITAKE ので、私がそう思わせると

(上田) ほー。

ヘマンタ カムイヘー、へ
 “hemanta kamuy he, (he) 「何の神か？」
 ウエンカムイヘー エネ、へー、
 wen kamuy he, e=ne (HE) 化物なのがお前なのか？
 イタササ イカル オラー スイ
 itasasa i=kar ora suy 私を痛めつけて、さらに
 アチセヘ アウフイカ セコルー ハウエアン
 a=cisehe a=uhuyka” (sekor hawean) 家を燃やされた」と
 セコル ハウエアン コル
 sekor hawean kor と言いながら
 ソノーノ、イル、アルカー シーって
 sonno, (ir) arka SITTE とても痛がって
 カルカルセ してんのに イルシカ ハウ
 karkarse SITENNONI iruska haw 転がりながらも怒っている声を
 アヌ コル こんど ナニ スイ
 a=nu kor KONDO nani suy 聞くと、すぐにまた
 トイトウム アオシマ ペコル
 toy tum a=osma pekor 地中へ飛び込んだように

(29) 松島氏によると、カッカラセと言ってすぐ後に、ヤイカルカルセレ yaykarkarser と言い直したという。

(30) 松島氏によると、アウフイカレではなくアウフイカ a=uhuyka と言うべきであったという。

(上田) ほー。

アヤイヌレ イネ こんど アウニタ
a=yaynure hine KONDO a=uni ta 思わせて自分の家に
エーカンイネ アナン (咳払い) アクスー
ek=an hine an=an akusu 私が帰っていると
イネ ヘムパク ト シラナクス
ine hempak to siran akusu 何日かたつと
ソンノ チタルペ かま、かます オル
sonno citarpe (KAMA, KAMASU) or 本当に、ゴザ袋へ彼女が
フユイケ オワ セワ、 エク シリ
huyuyke o wa se wa ek siri 衣服を入れて背負って来た様子を
アヌカル (咳払い) ヒケカ モスマノ
a=nukar, hike ka mosmano 私は見えても黙って
アナンベ アネイネ しまったけ
an=an pe a=ne hine SITTAKE いたのであったが
ソイタ アシ ワ アン コルカ アフン セコル
soy ta as wa an korka "ahun" sekor 外に彼女が立っていたが「入れ」と

(上田) ふっふっ…。

ハウエアナン カ ソモキノ アナナクス
hawean=an ka somo ki no an=an a kusu 言わずにいると
ヤイカタ アフン ヒネ シケヘ アヌ ヒネ、
yaykata ahun hine sikehe anu hine, 自分で入って、荷物を置いて
アヌ ルウェネーヅ ネクス こんど
anu ruwe ne p ne kusu KONDO それを置いたので今度は
エネ アヤイヌレ チセ トマム アッカリ
ene a=yaynure cise tomam akkari このように思わせた。家の壁よりも
ムン リヤリヤリヤ ペコロ アヤイヌレ
mun ri a ri a ri a pekor a=yaynure 雑草がぐんぐん伸びていたように思わせた。

(上田) はー、おっかない。

ふふふ…、(咳払い) そして、ア、アペサムタ
 (HUHUHU…) SOSITE (a) apesam ta
 ネ ムントウム タ ホッケアン ペコル
 ne mun tum ta hotke=an pekor
 アヤイヌレ コロ
 a=yaynure kor
 ケシト ケシト アナン ヒケ
 kesto kesto an=an hike
 ソンノ ムン リシパ リシパ ワ オ、
 sonno mun rispa rispa wa (o)
 ソイタ オスラ フミ ネヤ ネア ペコル
 soyta osura humi ne ya ne a pekor
 アヤイヌレ コロー⁽³¹⁾
 a=yaynure kor

(上田) は一、おっかない。

ケシト ケシト ネノ アカル コロ
 kesto kesto neno a=kar kor
 アナンベ アネー ヒ、ケ こんど
 an=an pe a=ne hike KONDO
 フユイケヘ エニヌイ ワー
 huyuykehe eninuy wa
 ソウシッ⁽³²⁾ ター モコル ランケ
 sowsit ta mokor ranke
 クンネアン コル キヅ ネクス して
 kunne an kor ki p ne kusu SITE,
 はは、エエエ、エ、エタカスレ アケムヌツ
 (HAHA, eee, e) etakasure a=kemnu p
 ペネクス こんど ピリーカ チセ ネ
 pe ne kusu KONDO pirka cise ne

ふふふ…、そして炉端で
 その雑草の中に私が寝ているように
 思わせて
 毎日、暮らしていたところ
 本当に女が雑草をむしりにむしって、
 外に捨てていたかのように
 私が思わせて

毎日のようにそうして
 いたところ、彼女は
 衣類を枕にして
 毎日、部屋の隅で寝ていた。
 夜になるとそうしていたのを
 私はとても哀れに思えてきた
 ので、きれいな家に、

(31) 松島氏によると、女は幻覚で見えている雑草を一生懸命に引き抜いて屋外に捨てているつもりであるという。

(32) 松島氏によると、「部屋のすまっこをソウスツという人もいたが、自分はソウシッ sowsit で覚えている」という。

ネ ムン イサムノ ピリーカ チセ ネー

ne mun isamno pirka cise ne

雑草のない美しい家である

カネ チセ ポロチセ ネ アヌカレ⁽³³⁾

kane cise poro cise ne a=nukare

立派な家、大きな家に見させた。

(上田) ほーんー。

ふふふ…、そしって こんど アペサム タ

(HUHUHU…) SOSITTE、KONDO apesam ta

ふふふ、そして今度は炉端で

ホッケアンコラ、ホッケアン ワ アナン したけ

(hotke=an kor a,) hotke=an wa an=an SITAKE

私が横になっていると

ホプニ イネ ソンノー シキヒ マカカ ワ

hopuni hine sonno sikihi makaka wa

彼女が起きて、大きく目を見開いて

(上田) ふっふっふ…。

エケシンネ インカラ インカラ コル アン シリ

ekesinne inkar a inkar a kor an siri

あちこちをキョロキョロしていたのを

アヌカル コロ モスマノ アペサムン エク

a=nukar kor mosmano “apesam un ek”

見ながら別に「炉端に来い」

セコロ カ ハウエアナン カ

sekor ka hawean=an ka

とも私は言いも

ソモキノ モスマノ

somo ki no mosmano

せずにかまわないで

(上田) ふーん。

アナン アクス (咳払い) こんど チシ コル

an=an akusu KONDO cis kor

いると、彼女が泣きながら

レウエレウエ⁽³⁴⁾ イネ アペサム タ

rewerewe hine apesam ta

這い這いして炉端に

(33) 松島氏によると、この場面は幻覚ではなく、主人公が元通りの立派な家に見えるようにしたということである。

(34) 一般的に「這う」はレイェ reye というが、松島氏は常にレウエ rewe と発音する。個人の特徴なのか、地域の特徴なのか、今のところ不明である。

エッ ルウェネ

ek ruwe ne

来たのであった。

(上田) ふーん。

ヒネ こんど チサ チサ チサ コロ

hine KONDO cis a cis a cise a kor

そして、彼女が泣きに泣いて

アン ヒクス マカンペ クス

an hi kusu “mak an pe kusu

いたので、「どうして、

エネ カムイ オピッタ エネ

ene kamuy opitta ene

このように神の全てを

ポクナモシルン エアルパレ ランケー

pokna mosir un e=arpare ranke

あの世へ行かせ続け、

ホシピ イサムパ して エネアン ウエンプリ

hosipi isampa SITE ene an wen puri

帰って来られないような悪さを

エコル は一、するもんだったら、もう、

e=kor (HA) SURUMON DATTARA MOU

続けるのなら

ウヌー トゥラー オナ トゥラ テイネ モシリ

unu tura ona tura teyne mosir

母親と父親と一緒にあの世へ

アエコオテルケー⁽³⁵⁾、ナー セコル

a=e=kooterke, na” sektor

蹴落としてやるぞ」と

ハウエアナナクス ポーヘネ

hawan=an akusu po hene

私が言うと、なお一層

チサ チサ チサ コル テワノ アナクネ

cis a cis a cis a kor te wano anakne

泣き続けて「これからは

え、あの、エネ アン ウエンプリ

(E, ANO,) ene an wen puri

このような悪いことを

ソモ アコルー、ルウェネナー ちって

somo a=kor, ruwe ne na CITTE

しません」と言って

アヤマッタロー

ayamattaro

彼女が謝った。

(35) 筆者は当初、アイコオテルケと記していたがモニターの指摘により、アエコオテルケ a=e=kooterke であることがわかった。

(上田) ふーん。

こんど アケムヌカ キー

KONDO a=kemnu ka ki

今度は彼女を哀れに思った。

イタササノ アカル、ワ したもんだから

itasasa no a=kar wa SITA MONDAKARA

私が痛めつけてしまったので

こんど、マチヒに アコル

KONDO macihi NI a=kor

彼女を私の妻にした。

(上田) ふーんー。

ヒネ ポー シレク、シクテ アキイネ、(咳払い)

hine posiresikte a=ki hine,

そして、子供をたくさん持って

オカアンペ アネクス おや、こんどその、

oka=an pe a=ne kusu OYA KONDO SONO

暮らしていたので、(今度その、

ふふ…、なんとけ…? カムイよ

HUHU…、NANTAKE,, kamuy YO

なんとけ? 神様は?)

(大谷) ヤスケフ。

(クモ。)

あ、ヤスケフ⁽³⁶⁾

A, yaskep

(あ、クモ。)

(大谷) ウパシ チロンヌフ

(白キツネ)

ヤスケフ、カムイ イテキー エネアン

yaskep kamuy iteki ene an

「クモの神よ、決してこのような

ウェンプリ ソモ エチコンナンコンナって、

wen puri somo eci=kor nankor na TTE

悪行をするのではないぞ」と

ウパシ チロンヌフ⁽³⁷⁾ カムイ ハウエアン セコル

upas cironnup kamuy hawean sektor.

白キツネの神様が言ったのだと。

(36) 知里真志保『知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編』平凡社 (1976) にヤスケフ yaskep の語形は未収録。

(37) 松島氏と上田氏は、ウパシ チロンヌフ upas cironnup を「白いキツネ」であるという。松島氏は子供の頃に父親の海馬沢政二(～1936) が自分のイノウチパ inaw cipa「祭壇」に向かって「ウパシ チロンヌフ カムイ、バセカムイー …」と祈っていたのを聞いたことがあるという。

4. ポロトを守る神の子のウウェペケレ

4-1 語り手によるあらすじ

シャモロン（隣の国）の部落に、の真ん中に、母親に育てられていた、ちっちゃい時だから、何で母親（言い誤ったので次で言い直す）、父親も居ないで、こうやって母親と二人でいるんだべなと思って、もう、そればかり考えて、や、もうクリばかり親採って来てや、炊いて食いながら、そうやって、もう明けても暮れても、クリばかり食べていた。けど、その父親居ないのが不思議でどうもならんくて、いたんだけども、ある時、だんだん自分も大きくなって、するもんだから、今度、泣きながら、何も言わなくて、泣きながらいて、いていていて、今度、お前、おらの言う事、母親だから言う事、ちゃんと聞いて、従がえよって言われてな。したけ、お前の親は、父親は、サモロンコ…うん、何たけ、ポロシリ…、（大谷：うん）ポロシリだな。（大谷：うん）ポロシリちゅう部落に、それこそ、部落守る神さんで、大きな岩あって、その大きな岩の上で、立派な家持っているから、そこさ行けて、はらんだのも知らないで（いたのだが、夫が）浮気したもんだから、腹くそ悪くて、家出して来て、この内地さ来て、こうやって生活して、いたんだけども、とつても偉い神さんだから、お前、おら育てている訳にいかないからそこへ、上がって、その岩の部落の守りするんだよって教えられて、その泣きながら、親言う。もう、自分も親置いて行けない、母親置いて行けなくて、もう泣きながら、そやってして、したけ、クリ、コンダシ（小物入れの袋）ちゅうもの、昔あって、このコンダシさ入れて、背負わされて、して、上がれよって言って、そして、そのお前のその孫爺や、孫フチ（婆）も、いるから、何たけ、ここ？

（大谷）うん、さっきポロシリ。

（松島）ポロシリ。

（大谷）あ、その、あ、

（松島）うん。

（大谷）ポップンとか。

（松島）孫爺。あ、オクシリ。

（大谷）ポ、ポップンって前、言ってなかったけ？

（松島）ポップンったか。ポップン コタン、コタン ノシキタ、ポロー、だ。あっははは…。

(大谷) ふふ…、日本語で。

(松島) 大きな岩あって、その上に自分の本家っていうものあって、そこにお前の孫婆や孫爺もいるから、そこさ先に行って、そして、後、振り向かないで、そのまんま、その家さ入って行けばいいからって、立つ、立たないで、その家の前に立たないで、家さ入れよって言われて、母親泣きながら、そやって教えてくれて、するもんだから、もう母親置くのがもう辛かったけども、そう言われるもんだから、今度その、コンダシちゅうもんさ、クリいっぱい入れて貰って、そして行ったら、その孫婆ら言う話聞いて、ピラトリ (平取) さも行くように、そのポップシにもう、朝起きて行く時に、それまいて行けよ、東さ向いて、う、あのまいて行けば、あの芽出るからって言われて、しまったもんだから、それ、背負って、今度海渡って、上がって見たけ、本当に岩、大きな岩あるもんだから、その岩今度、登って行っただけ、本当にポロチセ カネチセ (大きな家、立派な家) あるもんだから、ひっひひひ…、どうしても、入るべき…。

そこ行って、今度、立ちもしないで、そのまんま家さ入っただけ、本当に爺さまと婆さまと、いていて、今度そこへ入って、今度その、クリ背負ったまんま、今度、こうこうで、ここの娘、そのコタン (村)、コタンてその、ポルシリの岩の神さんさ、は、父親だからって教えられたもんだから、そして来たけ、本当にその孫爺も孫婆も泣きながら、「や、孫来たか」ちって、喜んで泣きながら、相撲とってしたけども (抱き合っていたけれど)、今度、こうだああだって言いながら今度、喜んでその、孫来たちゅうもんで、孫婆やら爺やら喜んで、もう、あれして、そこに、いろいろなご馳走こしらいてもらって食べて、ぐっすり寝て、そして朝になってから今度その、孫爺や孫婆、これから今度、お前ピラトリの神さんさ行けよって、その部落守る神さんているから、そこさ行けば、あの、その父親さ、ついてってくれるからって言われて、こんこんと、どこさも振り向かないで真っ直ぐ行けよっていわれて、そして、は一、今度 (咳払い)、そのクリ、今度、東さ向いてみんな、蒔いて、半分蒔いて、半分今度、背負って、また、今度、そのピラトリちゅうところも、どこだかわからんで、そして行って行って、よいやくそのピラトリちゅうときさ、着いて、そして今度、そこにも立たないで、すーぐ入って行っただけ、

ソソノ（本当に）ボク…、二人共、年寄りでいて、そして入ったっけ、
 びっくりこいて、今度、座って今度、こうこうこうって、
 身元言ったけ…、泣きながら今度、もう、喜んで、今度、
 こうこうこうたって言ったけ、もう、それこそ偉い神さまで、
 その岩守って部落守ってるもんだから、もう、今たら、相談、
 何事もみんな、相談、新冠やら、みんな、そ、の、
 カムイあと集まってや、相談したもんだっけけど、
 やってして、嫁さん家出してしまったもんだから、今度、もう、
 気の毒で、どうもならんくて、何事も相談も出来ない、
 神さんも出入りするの気の毒で、なに相談も出来なくて困っていたもの、
 良いあんばいに、あと、跡取り来たんだったら、
 明日は付いて行くからって言われて、今度は安心して、
 そこにも、いい布団敷いてもらって寝て、ご馳走食べて、
 そして、朝になってから今度、その親さ、父親さ行き会うのに、
 行くのに今度、そのピラトリの神さんついて、今度、二人で
 アカサンワ（歩いて）、行って行って行って、
 ふふふ…、どうしてもアイヌ語さ入る。ふふ…、
 行って行って、よいよく、そのポロシリ コタンさ着いて、
 したけ、本当にもう、それこそ、コタン ノシキタ（村の中央に）、
 しつとい、岩あって、そこを二人で登って行って、したけ、
 大きな家、ピカピカ光った家、大きな家、あって、
 あそこ、そうだって言われて、教えられて今度、
 そのピラトリの神さんの、着物の裾掴んで、そして、入って行っただけ、
 家いっぱい神さんら集まって集まって、もう皆大きな家なのに、
 もう座るとこもないくらい、神さんみんな集まって、いるとこさ行って、
 して、よくよく見たけ、その自分の父親だと思う人、だなどと思って、
 もう、頭下げてもう、今にも泣きそうな顔して、どんぶり、
 どんぶくれた顔している、あれが親だなぁと思っただけで、
 今度、したけ、みんな、自分座るとこ、あけてくれて、今度、
 炉縁の、前さ行って、平取の神さんと二人で座って、したけ、今度、
 ピラトリの神さんも何も言わないで、いていていて、今度、
 言い出して、お前の息子で、それこそ立派な奥さんだから、
 こうやってして、子供育てるのも、偉い神さんだから、
 とっても自分、これだけ大きくしたんだから、もう跡取りいないば、
 困るっっちゃうことで、海渡って、上がって来た息子だって言ったけ、

今度、頭上げてから今度、泣きながら、もう、自分さ相撲とって、
そして、喜んで、そして、息子だら、そばさ来いって言われるもんだから、
そばさ行って、したけ、そうやって相撲とって泣く、もう、もうもう、
そやって、いて、したけ、その、父親、お前せっ…、
お前せっかく、こやってして、来たんだから、まだ、
どの神さんがこの、岩守る神さんにするかなと思って、
考えて今、いた、もう、本当にどうするべっと思って、考えていたもの、
いいあんばいに息子来たんであったら、そのお前にここ、任せるから、
おらは明日になれば、もう、年も年だから、リクンカント (上の天) さ、
上がってしまうから、したから (咳払い)、あと、もう任せるからちって、
そう言って決まったもんだから、今度、父親もなんももう、機嫌いいくて、は一、
笑ってや、笑顔見せるようになって、そして喜んで、自分も、けど、
母親は気になってどうもならんけども、もう仕方ない、母親戻ること、
(来客のため、録音一時中止)

喜んで、もう笑顔見せるようになったもんだから、
もう、もう、自分も、母親は気になるけども、もう、仕方ないと思って、
諦めて、そして、そこに一晚泊まって、夜、夜明けたけ、今度、
イワン、イワン コソソデ (六つの小袖) ったら、あれだもんな、もうそれこそ、
神さんのまかない、いろいろまかなって、そして、今度、
(父が) 出るから、後さ出たけ、今度、泣いて、自分さ相撲とって、
もう立派にここ守れよって、言われながら、もう自分は年だから、
もう、おさまるとこさ、おさまるから、そうすれよって言って、
泣いてや行きかけてや、また戻って来てや、そやってして、
相撲とってや、そやってして、もう行くにも行けない、
一晚かそこいらだもの、もっと早くでも来るんだら、
まだだって言う…、父親泣きながら、相撲とって、
そやってしてや、もう諦めて今度、もう大きな鳥になって、
リクン カント、さか…、天さ上がってしまった、そこに今度、
転がって泣きながら、今度、…りしてたけ、は一あ…、
神さんらみんな出て来て、もう、入れ入れって言われて、しても、は一、
もう、もうもうもう、転がって泣いて、父親恋しくて泣いて、
せっかく会えたのにとしたら、もう泣けて泣けて、転がって泣いていて、
誰、神さん出て来て、聞かないで、したけど、今度、
平取カムイ、来て、今度、お前、ここ守らんばない、
お前の言う事しか、おら聞けないもの、どうして、そんな事していたら、

部落守る事も、どうする事も出来ないべさちって、もう怒られて怒られて、
 はあ、せっかく、そうだなんて思って、今度、思い直して、
 その平取カムイの、神さんの言う事聞いて、そして今度、家さ入ったけ、
 みんな、もう、自分さもう頭下げて、手ついて、もう、
 あれしてくれて、そして今度、みんな、あっちゃこっちゃ、
 部落守る、山、守る神さんから何から、みんな行ってしまって、
 そして、今度、ポロチセ オッタ (大きな家に)、今度、一人でいたけど、
 どうしても、母親も思い出してや、いたけども仕方ないと思って諦めて、
 その部落守って、イワ守って、そして、いい跡取り、出来たって、
 その孫婆、母親の親達も喜んで、くれて、ふっふ…、そして自分も安心して、
 だから、みんな、正直にさえすれば、いい神さんに恵まれるんだとさ。
 だけだったよな。

4-2 本文

サモルン コタン コタン ノシキ タ

samorun kotan kotan noski ta

和人の村の中央で

アコットット イレス ワ

a=kor tutto i=resu wa

私は母に育てられて

オカアンペ アネイケ は一、

oka=an pe a=ne hike (HA)

暮らしていたところ、

アコットット うう、ヤム パテッ カル ワ

a=kor tutto (uu) yam patek kar wa

母がクリばかり採って

アエー コロー オカアンペ アネイケ

a=e kor oka=an pe a=ne hike

私はそれを食べて暮らしていたが

マカーナッ⁽³⁸⁾ イキアン ワ オナ サッノ

makanak iki=an wa ona sakno

どうして父親がいなくて

エネ アコットット シネンネ イレス ワ

ene a=kor tutto sinen ne i=resu wa

こうして母一人に私を育てられて

アンペ、ネヤカ アエラムシカリ ノ

an pe ne ya ka a=eramusikari no

いたのかも知らずに

オカ アン ペ アネー ヒケー

oka=an pe a=ne hike

暮らしていたところ

(38) マカーナッ makanak はマカーンナッのようにも聞こえる。

だんだん ポロー ヘカチに アナン

DANDAN poro hekaci NI an=an

アコットット イピリカレスー

a=kor tutto i=pirkaresu

イトムテレス キ ワ オカアンベ アネイケ

i=tomteresu ki wa oka=an pe a=ne hike

シネ アン ト タ アコットット

sine an to ta a=kor tutto

チシ コル ネプ イェー カ ソモキノ

cis kor nep ye ka somo ki no

アン ワ アナイーネ (咳払い) はー、

an wa an ayne (HA)

アレス カムイ アレス ソンタック

“a=resu kamuy a=resu sontak

イタカン チキー ピリカノ

itak=an ciki pirkano

エイヌ カトゥ エネアニ

e=inu katu ene an hi

オナ サッペ カ ソモ エネ、はー、

ona sak pe ka somo e=ne (HA)

エオナハ アナクネ ポロト コタン

e=onaha anakne poro to kotan,

コタン エブンキネ カムイ

kotan epunkine kamuy

シーノ ピリーカ ヌブル カムイ、へー、

sino pirka nupur kamuy, (HE)

パセ カムイ エオナハ ネワ

pase kamuy e=onaha ne wa

オロタ イトムヌカラン ワ

oro ta itomnukar=an wa

オカアニケ (咳払い) アナニケ、はー、

oka=an hike an=an hike (HA)

イシカル プトゥウン カムイ、

Iskar putu un kamuy,

だんだん大きな子供に成長した。

母が私を大事に育て

大切に育てられていたところ

ある日、私の母が

泣きながら何も言わずに

いたあげくに

「私の育てた神よ、私が育てた赤ちゃんよ、

私の言うことをよく

聞きなさい。

あなたは父親のいない者ではない。

あなたの父というのはポロト村、

その村を守る神様で

本当に素晴らしい霊力を持った神様、

偉い神様があなたの父親であって、

そこで私たちは夫婦として

暮らしていたのだが、

イシカリ川の河口の神様、

コタン エブンキネ カムイ マタキヒ、パーッ
kotan epunkine kamuy matakahi pak その村を守る神様の妹ほど
シレットコルー マタキヒ メノコ
siretok kor (matakahi) menoko 美貌を持った女は
イサム ルウェネー ヒネ エアラキンネ、うーん、
isam ruwe ne hine earkinne, (UN) いなかったので、本当に
トゥ イメル クル レ イメル クル
tu imeru kur re imeru kur 輝きをふたつもみつつも
チコタッタク⁽³⁹⁾ ピリカ メノコ ネッ ネクスー
cikotuytuyke pirka menoko ne p ne kusu ピカピカと光らせた美しい女であったので
アエコテ⁽⁴⁰⁾ ニシパ カムイ (咳払い)
a=hekote nispa kamuy 私が頼っていた神様が
エラマス ネワ アンペー エラマスイ クス
eramasu ne wa an pe eramasuy kusu 彼女を気に入ったために
オロウン アルパー ランケ コル アン
oro un arpa ranke kor an そこへ通い続けていたのです。

(上田) ふーん。

エアラキンネー アルシカ ケウトウム
earkinne a=ruska kewtum 私はとても嫉妬心を
アコル ヒネー アナンベ アネイケ
a=kor hine an=an pe a=ne hike 抱いて暮らしていたところ
はー、シネ アン ト ター スイ、はー、
(HA) sine an to ta suy (HA) ある日、また夫は
ネ イシカル プトゥウン アルパ ワ イ、イサム
ne Iskar putu un arpa wa (i) isam イシカリ川の河口へ行ってしまった。
ネ メノコ コ、コパッ トゥイエ⁽⁴¹⁾ ワ
ne menoko (ko) kopak tuye wa その女の方へ通って

(39) 松島氏によると、チコタッタク cikotaktaku 「～を丸めてつける」はチコトゥイトゥイケ cikotuytuyke 「～をピカピカ光らせる」と言うべきであったというので、ローマ字と日本語訳をそのように記した。

(40) 通常はアエコテ a=hekote と発音する。

(41) 松島氏によると、コパッ トゥイエ kopak tuye は「～の方へ～が通う、～の方へ～が行く」という意味であるという。トゥイエ tuye を用いる場合は必ず前にコパッをおかなければならないという。文例として、サッポロ タ アン メノコ コパカトゥイエ SAPPORO ta an menoko kopak a=tuye 「札幌にいる女の方へ私を通った」という。

アルパ ワ イサム オカケタ、こんど	
arpa wa isam okake ta, KONDO	行ってしまった後に
イケスイ アンイネ タパン はー、コタン タ	
ikesuy=an hine tapan (HA) kotan ta	私が出して、この村に
エク、エカン ワ (咳払い) インカラニケ オヤチキ	
(ek) ek=an wa, inkar=an hike oyaciki	来てみてわかったのは
ホンコル アニカ エラムー、アエランペウテッノ	
honkor=an hi ka (eramu) a=erampewtek no	妊娠していることも気づかずに
サモルン コタン コタン ノシキ タ	
samorun kotan kotan noski ta	和人の村の真ん中に
エカン ワ アエポコル ルウェ ネ アクス	
ek=an wa a=e=pokor ruwe ne akusu	来て、あなたを産むと
オッカヨネ オラ タネ タ パクノー	
okkayo ne ora tane ta pakno	男であったので、それから今まで
オリパク トゥラー アエレス ワ	
oripak tura a=e=resu wa	気遣いながら私はあなたを育てて
オカアンペ アネ ヒケー、は、いや (咳払い)	
oka=an pe a=ne hike, (HA, IYA,)	暮らしていたのです。
ヘンパラ パクノ アエレス ワ	
hempara pakno a=e=resu wa	いつまでもあなたを育てて
アナシ カ エアイカッ ネ ⁽⁴²⁾	
an=an ka eaykap hine	いることもできないで
ポロト コタン エプンキネ カムイ	
poro to kotan epunkine kamuy	ポロト村を守る神様は
アヘコテ カムイ、アコオリパク ワー	
a=hekote kamuy, a=kooripak wa	私が仕えた神様で尊敬して
アキ クス タパン ヤム サラニツ	
a=ki kusu tapan yam saranip	いたので、このクリの背負い袋を
エセ ワ タント オッター エアルパ	
e=se wa tanto or ta e=arpa	あなたが背負って、今日出かけ
クニ ネ ナ オラ、エ、エチトゥラ ワ	
kuni, ne na. ora, (e) eci=tura wa	なさい。あなたと一緒に

(42) ヒネ hine のヒ hi がほとんど聞こえない。松島氏によると、この場面で母親が子供と一緒に暮らせないと思った理由は、「男の子はポロトコタン エプンキネ カムイの長男にあたるので、その後継ぎにさせないと駄目だ」と考えたためである。

ヤナン カ エアイカヅ イケスイ アン ペ
 yan=an ka eaykap ikesuy=an pe
 アネヅ ネ クス ウェンプリ シンネ は、
 a=ne p ne kusu wen puri sir ne (HA)
 イケスイ アンペ ネ クス ホシビアン カ
 ikesuy=an pe ne kusu hosipi=an ka
 エアイカヅ ルウェネクス テワノー
 eaykap ruwe ne kusu te wano
 タパン ヤム サラニヅ エセ ワ エヤン
 tapan yam saranip e=se wa e=yan
 エヤン テクサム、ポップシー コタン オルン
 e=yan teksam, Poppus kotan or un
 エヤ、エヤン ナンコル エヤン チキ
 (eya) e=yan nankor e=yan ciki
 アオナハー アウスフー カムイ ウタル
 a=onaha a=unuhu kamuy utar
 オカ ルウェ ネクス エウン エアルパ ナンコル
 oka ruwe ne kusu eun e=arpa nankor

(上田) ふーん、ふん、ふん、ふん…。

エ、エウン (咳払い) エコル フチー
 (e) eun e=kor huci
 エコル エカシー ウタラ ハウエオカ ヒー
 e=kor ekasi utar haweoka hi
 エヌー ワ オラー エソイネ クニーネ
 e=nu wa ora e=soyne kunine
 タパン ヤ、ヤム サラ、ヤム
 tapan (ya yam sara,) yam
 エツヅカウナー⁽⁴³⁾ エチャッチャリ
 ecupkaun e=catcari

私は渡れません。家出をした
 私なので、悪い行いである
 家出をしたので帰ることも
 できないので、今から
 このクリの袋を背負って渡りなさい。
 あなたが上陸したそば、ポップシ村へ
 上がるでしょう。そこに上がったら
 私の父と母の神様たちが
 いるので、そこへあなたは行きなさい。

そこであなたのお婆さんと
 お爺さんたちが言うことを
 聞いてから、あなたは外に出て
 このクリを
 東の方へ向いてばら蒔きなさい。

(43) 松島氏によると、ここは対句でエツヅポクン ecuppokun「西へ」というべきであったという。特にクリを蒔く方角が決まっているわけではなく、あちこちに蒔くという表現であるという。

ミマラハ ビラトゥル オッター エセ ワ

mimaraha Piratur or ta e=se wa

その残りを平取⁽⁴⁴⁾に背負って

(上田) ふーんー。

ビラトゥル カムイー オロ ター、

Piratur kamuy or ta,

エチャッチャリ ナンコル

e=catcari nankor

平取の神様のところで

あなたが蒔き散らしなさい。

ビラトゥル カムイ (咳払い) エコル エカシ

(Piratur kamuy,) e=kor ekasi

あなたのお爺さんと

エコル フチ ウタル ハウエオカイ ヒ

e=kor huci utar haweokay hi

お婆さんたちが言うことを

エヌ ワ ビラトゥル カムイ オッタ

e=nu wa Piratur kamuy or ta

聞いて、平取の神様のところに

エアルパ ヤクン ビラトゥル カムイ エ、

e=arpa yakun Piratur kamuy (E)

行ったなら、平取の神様が

エトゥラ ワ、あー、エトゥ、エトゥラ ワ、

e=tura wa, (A) e=tura wa

あなたを連れて、

なんたけ? あ、ポロト、

(NANTAKE A, poro to,)

(何たけ? あ、ポロト、)

ポロト コタン (咳払い) エオナハ ウニウン

poro to kotan, e=onaha uni un

ポロト村のあなたの父親の家に

エチパイェー ナンコン ナー

eci=paye nankor na

行くことになるでしょう。

⁽⁴⁵⁾ソ、イテキ オッカヨ ⁽⁴⁶⁾エネ するから

(SO) iteki okkayo e=ne SURUKARA

そうしないと男になれないよ。

チシ ソモキノ ホクレ アルパー セコル

cis somo ki no hokure arpa” sekor

泣かないで、さあ行きなさい」と

アコットット ハウエアン ペネークス

a=kor totto hawean pe ne kusu

私の母が言ったので

(44) 松島氏はビラトゥル Piratur を現在の沙流郡平取町のことであると言っているので日本語訳は「平取」と記した。

(45) 松島氏によると、「そうでないば (そうしないと)」というつもりであったというので、そのように日本語に訳した。

(46) ここのエネについて松島氏に確認すると、ene 「このように」ではなく e=ne 「お前である」という。

エアッキンネ エネ イピリカレス イトムテレス キー、
 earkinne ene i=pirkaresu i=tomteresu ki とても大事に育ててくれた
 ア、アコットット ネ アワ ア ホッパ ワー
 (a) a=kor tutto ne awa a=hoppa wa 母であったから、残して
 アルパアン カ ヤナン カ エアイカフ (咳払い)
 arpa=an ka yan=an ka eyaykap, 行くことも渡ることもできなかった。
 オラ チサン コル アナンペ アネ して
 ora cis=an kor an=an pe a=ne SITE それから、私が泣いていると
 イテキ チシノ ホクレ アルパ セコル
 “iteki cisno hokure arpa” sekor 「泣かないで、さあ行きなさい」と

(上田) は一ん。

アウヌフ、アコットット ハウエアンペ ネ クース
 a=unuhu, a=kor tutto hawean pe ne kusu 私の母が言ったので
 きいたまんまに わし いうんだけど (咳払い)
 KIITA MANMA NI WASI IUNNDAKEDO (聞いたままに私は言うけれど)
 もんだから こんど ネー ヤム サラニフ
 MONDAKARA KONDO ne yam saranip そのクリの背負い袋を
 アセ イネ こんど アトゥイ カマ ヤナン
 a=se hine KONDO atuy kama yan=an 私が背負って海を越えて上陸した。

(上田) ほ一。

ヒナコロー ポッピシ⁽⁴⁷⁾ ネヤー
 hinakoro Poppus ne ya どこがポップシ村なのか
 アエランペウテック コルカ エネ
 a=erampewtek korka ene 私は知らないけれども、あのよう
 アコットット ハウエアン ペネクス
 a=kor tutto hawean pe ne kusu 私の母が言ったので
 エウン ヤナン アクス ソンノ ポカ
 eun yan=an akusu sonno poka そこへ上がると本当に

(47) ポッピシと聞こえるが、松島氏は通常ポップシと言うのでローマ字をそのように記した。

ポロ スプリ シノ スプリ アンイネ	
poro nupuri sino nupuri an hine	大きな立派な山があって
ヌプリ カ タ カネ チセ ポロチセ	
nupuri ka ta kane cise poro cise	山の上に立派な大きな家が
アン シリ アヌカル コル あ、	
an siri a=nukar kor (A)	あるのを見ながら
ヤナンペ アネッ ネクス こんど、は一、	
yan=an pe a=ne p ne kusu KONDO (HA)	私は上陸してから
ネ ヌプリー あ、あ (咳払い) ヘメスアン	
ne nupuri (A A), hemesu=an,	その山に登った。
ヌプリカタ ヘメスアンイネ	
nupuri ka ta hemesu=an hine	山の上に登って
イテキ す、チセソイタ アアス ソモキノ	
iteki (SU) cise soy ta a=as somo ki no	家の外で佇まないで
ナーニ オハウピ サッノ ⁽⁴⁸⁾ チセ オルン	
nani ohawpi sakno cise or un	すぐに声も音も出さずに家の中へ
エアフンペネ ナ セコル アコットット	
e=ahun pe ne na sekor a=kor tutto	入るのですよ」と私の母が
ハウエアン ペネクス ネノ オハウピ サッノ	
hawean pe ne kusu neno ohawpi sakno	言っていたので声を出さずに
アフナナクス ソンノボカ	
ahun=an akusu sonno poka	入って行くと本当に
オンネ エカシ オンネ フチ	
onne ekasi onne huci	年寄りのお爺さんとお婆さんの
ウムレク オカワ オカバ	
umurek oka wa okapa	夫婦が暮らしていた。
アフナンネ ネ サラニッ アセ カネ	
ahun=an hine ne saranip a=se kane	私は袋を背負って入り、
ヤム オ サラニッ アセ カネ	
yam o saranip a=se kane	クリの入った袋を背負いながら

(48) 松島氏によると、オハウピ サッノ ohawpi sakno は「化物が来た時に黙っている時の言い方」でもあるという。通常、アイヌが他所の家を訪問した時は玄関前で自分が来たことを知らせるための咳払いや音を立てるが「自分の身内であるお爺さんの家だから、挨拶もいらぬ。遠慮せずにまっすぐ前を見て入れという意味」と説明をされた。奥田統己編『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集 (CD-ROM つき)』札幌学院大学人文学部 (1999) に似た語形で「ohumki オフムキ【1項動詞】音を立てる (意味不詳)」がある。

(上田) ううん。

モノ アアンイネ タッネ タッネ カネ
 mono a=an hine tapne tapne kane きちんと座って、かくかくしかじかと

サモルン コタン コタン ノシキ タ
 “samorun kotan kotan noski ta 「和人の村の真ん中で
 アコットット イレスアン⁽⁴⁹⁾ ワ、あ、は一、オロワ
 a=kor tutto i=resu(an) wa (A HA) oro wa 私の母に育てられて、そこから
 アエ、アエコヤンテ⁽⁵⁰⁾ ワ エネ
 (ae,) a=i=koyante wa ene 海を渡らせてくれたのでこうして
 ヤナン ルウェネ ワ エカン ルウェネ
 yan=an ruwe ne wa ek=an ruwe ne” 上がって来たのです”
 セコル ハウエアナナクス
 sekor hawean=an akusu と私が言うと
 エアラキンネ アミッポ、カムイ アミッポホ
 “earkinne a=mippo kamuy a=mippoho 「本当に私の孫よ、神なる孫が
 ヤナウエネ⁽⁵¹⁾ セコル ハウエオカパ コル
 yan hawe ne” sekor haweokapa kor 渡ってきたのだな」と言って

(上田) ほー。んーんーんー。

ふー、アコル フチー エカシー
 (hu) a=kor huci ekasi お婆さんとお爺さんが
 イムライパパ コロー
 i=muraypa pa kor 私を抱きしめながら
 チシ ロク チシ ロク (咳) コル エネ ハウエアニ
 cis rok cis rok kor ene hawean hi 泣きに泣いてこのように言った。
 その ポロト コタン コロ カムイ アナッ
 (SONO) “poro to kotan kor kamuy anak 「ポロト村の神というのは

(49) イレスアンは、イレス i=resu だけで意味が通じるのでアンを言いさしとみなした。

(50) 当初、アエコヤンテ a=ekoyante と記したが、モニターからアイコヤンテ a=i=koyante の可能性を指摘されたので松島氏に確認するとこの箇所をアイコヤンテ a=i=koyante と言い直したのでローマ字表記をそのように訂正した。

(51) ヤンナフェネとも聞こえたので、松島氏にゆっくりと発音してもらおうと、ヤン ハウエネ yan hawe ne と答えられた。

ソノーノ シーノ パセ カムイ ネワ	
sonno sino pase kamuy ne wa	本当に偉い神様として
アコオリパッ ペネ クス	
a=kooripak pe ne kusu	私たちが尊敬していたため
エネ アマチネポ アコララッ エネ ⁽⁵²⁾	
ene a=macinepo a=korar a p ene	こうして娘を嫁にやったものだが
エネ ウェンプリ シンネ (咳払い) イケスイ ワ	
ene wen puri sir ne ikesuy wa	このような悪い行いである家出をして
イサム ワ オラーノ ネウン	
isam wa orano neun	いなくなってからは、どのように
ハワシ フマシ ヤッカ	
hawashumas yakka	騒がしく噂をされても
ポロト コル カムイ イエ イタッでないば	
poro to kor kamuy ye itak DE NAIBA	ポロトの神様の言うことばがなければ
アヌ エアイカッ ペネクス	
a=nu eaykap pe ne kusu	聞き入れられないので
アコソソタイ カ エ、ク、ソモキノ ⁽⁵³⁾	
a=kosontay ka (ek) somo ki no	私は話し合いも
できないんだと アコオリパッ して (咳) ワ	
DEKINAIN DATO a=kooripak (SITE) wa	出来ずに恐れかしまって
ネウン ハワシ フマシ ⁽⁵⁴⁾ しても、	
neun hawashumas SITTEMO	どんなに噂されても
ふー、エネ アイエ イ ⁽⁵⁵⁾ カ イサム	
(HU) ene a=ye hi ka isam	どうすることもできない
していたもの いいあんばいに ⁽⁵⁶⁾	
SITE ITAMONO II ANBAI NI	でいたのであるが丁度良く
カムイ アミッポ ヤン ハウエ ネ ア ⁽⁵⁷⁾	
kamuy a=mippo yan hawe ne a	神なる孫が渡って来た。

(52) アコララッ ヘネ a=korarp hene と記していたが、モニターの指摘を受けて、この箇所を松島氏に確認するとアコララッ エネ a=korar a p ene と言われたので訂正した。

(53) 松島氏によると、この行はアコソソタイカ エアイカッノ a=kosontay ka eaykapno 「相談も出来ずに」と言おうとした箇所である。

(54) 筆者はハワシハマシと記していたが、モニターからハワシフマシ hawashumas に聞こえると指摘されてそのように訂正した。

(55) モニターの指摘で、聞きなおすと「イ hi」は欠落していたので訂正した。

(56) 松島氏によると、「平取の神が何も弁解も出来ないでいたのであるが、孫が来たことによって相談を持ちかけることが出来るようになったことを喜んでいる」という。

(57) モニターの指摘により、聞きなおしてネヤ ne ya からネ ア ne a に訂正した。

ヤクン ニサッタネ アナッネ

yakun nisatta ne anakne

それなら、明日になったならば

ピラトゥル コタン、タ エアルパ ワ

Piratur kotan ta e=arpa wa

平取村へお前が行って

ピラトゥル カムイ オルン エアルパ ワ

Piratur kamuy or un e=arpa wa

平取の神様のところに行って

イエ イタッ エヌ ナンコンナー セコル

ye itak e=nu nankor na” sekor

彼が言うことばを聞きなさい」と

(上田) ほう。

アコル エカシ アコル フチ ウタラー、そやって

a=kor ekasi a=kor huci utar SOYATTE,

お爺さんとお婆さんたちが

ネ、ピラトゥッタ エアルパ ヤッカ は一、

“ne, Piratur ta e=arpa yakka (HA)

「平取に行っても

イテキー あの チセ ソイター アシ ソモキノ

iteki ANO cise soy ta as somo ki no

家の外で佇まないで

ナニ エ アフンペ ネ ナー セコル

nani e=ahun pe ne na” sekor

すぐに中に入るんですよ」と

ハウエアンペ ネクス ハウエオカパ ネクス

(haweian pe ne kusu) haweoka p a nekusu⁽⁵⁸⁾

言ったので

こんど (咳払い) おちゃ 入れて のんで

KOND (OCA IRETE NOME)

こんど、(お茶入れて飲んで)

(大谷) うん。

オロワノ こんど (咳払い) ピリーカ レウシ

orowano KONDO, pirka rewsi

それから、安心して宿泊を

アキ オロタ アキー ヒネ こんど

a=ki oro ta a=ki hine KONDO

そこでして

クンネイワ ホプニアンイネ⁽⁵⁹⁾ こんど

kunneywa hopuni=an hine KONDO

朝になって起きると

(58) モニターの指摘により、ローマ字表記を haweokapa ne kusu から haweoka p a nekusu に修正した。

(59) ホプニアンイネとも聞こえる。

ネー ヤム サラニツ アコル ワ

ne yam saranip a=kor wa

そのクリの背負い袋を私は持って

ソイネアンイネ⁽⁶⁰⁾ エツツカウン ア チャッチャリ

soyne=an hine ecupkaun a=catcari

外に出て、東の方へ向かって蒔いた。

(上田) ほう。

ミマラハ アセ ワ こんど ビラトウッタ

mimaraha a=se wa KONDO Piratur ta

残りを背負って、平取に

エカナ エカナ アイーネ

ek=an a ek=an a ayne

どんどんやって来ると

ビラトウル カムイ ソイケ タ エーカン (咳)

Piratur kamuy soyke ta ek=an

平取の神の家の外に着いた。

は一、オラ ソイケ タ エカン ペネイネ

(HA) ora soyke ta ek=an pe ne hine

外に来ることができたので、

アコットット カー エカシ フチ ウタル カ

a=kor tutto ka ekasi huci utar ka

母もお爺さんやお婆さんたちも

ハウエオカイ ペネクス ス、

haweokay pe ne kusu (su)

言っていたので

ソイタ アサン カ ソモキノ

soy ta as=an ka somo ki no

外に佇みもせづに

ナニ アフナン、ネ サラニツ

nani ahun=an ne saranip

すぐに入って、その背負い袋を

アセ カネ アランケ カ ソモキノ

a=se kane a=ranke ka somo ki no

背負いながら降ろさずに

ナニ アフナンーペ アネ ヒネ、ケ、

nani ahun=an pe a=ne hine, (ke)

すぐに私が入って行って

タツネ タツネ カネー アコットット

tapne tapne kane "a=kor tutto

かくかくしかじかと「私の母が

サモルン コタン ワ

samorun kotan wa

和人の村から

エネ アイヤンテ ワー

ene a=i=yante⁽⁶¹⁾ wa

このように私が上陸させられて

(60) ソイネアンニネとも聞こえる。

(61) モニターの指摘により聞きなおし、アヤンテ a=yante からアイヤンテ a=i=yante に訂正した。

ヤナン ペ アネ ルウェネ セコルー	
yan=an pe a=ne ruwe ne” sekor	やって来たのです」と
ヤヨペオペ ⁽⁶²⁾ アッ、アーナン アナクスー、	
yayopeople (ak, an=an) an=an akusu	自分の素性を明すと
アー、カムイ アカルク ヤノウエネ セコル	
“a kamuy a=karku yan hawe ne” sekor	「ああ、神の甥っ子が渡って来たのか」と
(上田) ほー、うーんー。	
ピラトゥル カムイ ハウエアン コロ	
Piratur kamuy hawean kor	平取の神様が言うと
ソノーノ チシ パ コルー	
sonno cispā kor	本当に泣きながら
カムイ ウムレク ウタラ	
kamuy umurek utar	神様の夫婦たちが
チシ パ コロ イコムライパー ⁽⁶³⁾ コル オカイネ	
cispā kor i=komuraypa kor oka hine	泣きながら私を抱きしめて
エネ パセ カムイ はー、ヌプル カムイ	
“ene pase kamuy (HA) nupur kamuy	「偉い神様、霊力の強い神様、
ポロト コルー エプンキネ カムイ	
poro to kor epunkine kamuy	ポロトを守る神様
アンペ ネ カムイ オルン	
an pe ne kamuy or un	がいるところで
ウイエツヌアン ⁽⁶⁴⁾ 、アン ワ、はー、	
uyepnu wa an (an) wa (HA)	話し合いがあって
ニカッパー ⁽⁶⁵⁾ エトコ ウン カムイー	
Nikap etoko un kamuy	新冠川の上流にいる神様や

(62) 萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂(1996)に「ヤヨペヨベ【<yay-opes-opes】自己紹介(する)」とあるが、松島氏の場合はヤヨペオベ yayopeople と言う。

(63) 松島氏にイコムライパの意味を尋ねると、「相撲とって泣く」といい、人が会ったときに背中にも手を伸ばして抱きしめ合ったときのことであるという。ウコムライパアン ukomuraypa=an「私が一緒に抱き合う」という表現もできるという。

(64) モニターの指摘により、松島氏にゆっくり発音してもらおうと、ウイエツヌ ワ アン uyepnu wa an「相談する」と答えられたので訂正した。久保寺逸彦『平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書』北海道教育委員会(1992)に「uyepnu V 互いに話をきゝ合ふ、相談をまとめる」とある。

(65) 松島氏によると、日高の新冠町のことであるという。

シピチャルン⁽⁶⁶⁾ エトコ ウン カムイ

Sipicar un etoko un kamuy

静内の上流にいる神様

ネヤッカー ウ、ウー、イエフ ヌパワ、は一、

ne yakka (u) uyepnupa wa (HA)

であっても、話し合いを聞いて、

ウコソソタイ で タンパ オッタ

ukosontay DE “tanpa or ta

その相談によって、『今年は

イナン ヤク アコル ヤク ピリカ セコル は一、

inan yaku a=kor yak pirka” sekor (HA)

どの役目を持たれたら良い』と

ポロトコル カムイ ハウエアンコル

poro to kor kamuy hawean kor

ポロトの神様が言った

それに、したがったと、いたもの

SORE NI, SITAGATTA TO ITA MONO

ことに従っていたのであるが、

エネ カムイ (咳払い)、メノコー イケスイ ワ

ene kamuy, menoko ikesuy wa

このように神様の奥様が家を出て

イサム ルウェネーワ アコオリパク ベネクス

isam ruwe ne wa a=kooripak pe ne kusu

いなくなったので恐れ多くて

ネフ イ、アコウエペケンヌ カ エアイカッノ

nep (i) a=kowepekennu ka eaykap no

なにも訊ねることが出来ずに

オカ アンペ アネアツ、は一、カム、

oka=an pe a=ne a p, (HA) kam,

いたのであったが

カムイ メノコー プリ ピリカッ ネットス

kamuy menoko puri pirka p ne kusu

神様の奥様は行いが良いため、

エネ ピリカー (咳払い) カムイ ヘカチー

ene pirka kamuy hekaci

このようにして立派な神様の子を

ヤンケ ハウエネー セコル ハウ、ハウエオカー

yanke hawe ne” sekor (haw) haweoka

上陸させたのだ』と言った。

ピラトウル カムイ カ キー コロ

Piratur kamuy ka ki kor

平取の神様がそう言いながら

チャーシ コル イコムライバ アイネ

cis kor i=komuraypa ayne

泣いて私を抱きしめて

ニサッタネ アナツネ ポロト コタン オルン

“nisatta ne anakne poro to kotan or un

「明日になったなら、ポロト村へ

(66) 松島氏によると、日高の静内町のことであるという。

パイェアンペ ネー セコル

paye=an pe ne” sekor

ウトゥラアン ナ セコル ビラトゥル カムイ

“utura=an na” sekor Piratur kamuy

ハウェアン ルウエネ ヒネ は一、オロタ スイ

hawean ruwe ne hine (HA) oro ta suy

シネ アンチカル モコラン レウシアン ヒネ

sine ancikar mokor=an rewsian hine

クンネイワン、アンワ こんど ホブニアニネ

kunneywa, an wa KONDO hopuni=an hine

こんど ネー ヤム エツツカウ

KONDO ne yam ecupkaun

エツツポクン ア チャツチャリ

ecuppokun a=catcari

(上田) ほう。

オピッタ ア チャツチャリ イネ

opitta a=catcari hine

アコル サラニツ アオハレ ヒネ こんど

a=kor saranip a=ohare hine KONDO

ビラトゥル カムイ トゥラノ こんど

Piratur kamuy turano KONDO

ポロト オルン パイェアナ パイェアナ

poro to or un paye=an a paye=an a

アイネ ヒナコロ ポロト ネヤッカ

ayne hinakoro poro to ne yakka

アエラムシカリ コルカー

a=eramuskari korka

ビラトゥル カムイ イキアン コラチ

Piratur kamuy “iki=an koraci

エイキツ ネ ナー セコル ハウエ、アン コル

e=iki p ne na” sekor hawean kor

ウトゥラアン ペネクス パイェアナイネ

utura=an pe ne kusu paye=an ayne

行くぞ」と、

「一緒に行くぞ」と平取の神様が

言うので、そこでまた

一晩、私は泊まって

朝になって起き上がると

そのクリを東の方へ

西の方へと蒔き散らした。

全て蒔き散らして

背負い袋を空っぽにしてから

平取の神様と一緒に

ポロトへどんどんと行き進む

と、どこがポロトなのか

私は知らなかったけれども

平取の神様が「私が振舞うように

しなさい」と言って

私たちが一緒になって行くと

シエトクン はー、ネー ポロト コタン ネ
siyetok un (HA) ne poro to kotan ne 前方に、ポロト村である
ヤカイエーウシケ ウン パイエアナクス
yak a=ye uske un paye=an akusu といわれたところへ私たちが行くと
ソナーノ ヌプル、ヌプリー ビリーカ ヌプリ
sonno (nupuru nupuri) pirka nupuri, とても美しい山が、
シノ ポロ ヌプリ アン カシケ タ
sino poro nupuri an kaske ta 本当に大きな山の上に
ソナーノ イメル ウス ピリーカ カネ チセ
sonno imeru us pirka kane cise とても美しく輝いた立派な家、
ポロー チセー ミケミケ カネ ポロ チセ
poro cise mikemike kane poro cise 大きな家、きらきら輝いた大きな家が
アン ルウェ アヌカル コル パイエアン アイネ
an ruwe a=nukar kor paye=an ayne あるのを見ながら行くと
ソイケ タ パイエアナクス
soyke ta paye=an akusu その表に私たちが行くと
ピラトゥル カムイ カー、ソモ アシノ
Piratur kamuy ka somo asno 平取の神様も佇みもせづに
アフンベ ネクス チンキケシ
ahun pe ne kusu cinkikes 入ったのでお爺さんの着物の裾端を
アキシマ カネ アフナン
a=kisma kane ahun=an つかんで私は入った。

(上田) ふーん、ふーんん。

アフナニンカラニケー ソナーノ エネ
ahun=an inkar=an hike sonno ene 入ってみたところ、本当に
ポロ チセ カネ チセ、ポロ チセ ネッ
poro cise kane cise, poro cise ne p 大きな立派な家であった。
オラー カムイー オッ、シレシクノ
ora kamuy ot, siresik no, 神が群集になって
チセシクテノ カネ カムイ
cise sikte no kane kamuy 家中いっぱいになって神々が
ウウェカルパワ オカ ルウェネ
uwekarpa wa oka ruwe ne 集合していたのでした。

(上田) ふーん。

ヒネー インカラニケー エシソウン ⁽⁶⁷⁾ ワ	
hine inkar=an hike esisoun wa	そして私が見たところ、右座の方に
ソノノ アコットット カ ハウエアン コラチ	
sono a=kor totto ka hawean koraci	まったく私の母も言ったように
ヌブル カムイ パセ カムイ ネ ヒ	
nupur kamuy pase kamuy ne hi	霊力の強い偉い神様であることが
アエラマンークル モノ アワ、アワ アン ヤク、	
a=eraman kur mono a wa, (a wa) an yak,	わかるお方が静かに座っていると
ヘマンタ カ エカ、ヘプトットウ ワ ライー ⁽⁶⁸⁾	
hemanta ka (eka) ray hepututu	なぜか、とてもふくれ面をしていた。

(上田) ふーん。

タネ プ サンキ ヤー、ヤク アンキ ⁽⁶⁹⁾	
tane pus anki (ya) yak anki	今はふくれ面をして
ヘプトットウ ワ ヘポキキ ワ アン	
hepututu wa hepokiki wa an	口をとがらせて下を向いたままでいた。

(上田) ふーん。

カムイ アン ルウェネンネ そしたけー	
kamuy an ruwe ne hine SOSITAKE	神様がいるところに
アフナニ エラムオカ カムイ ウタヲ	
ahun=an hi eramuoka kamuy utar	私が入って来たことを知った神々が

(67) モニターの指摘により、聞きなおしてエシソン esison からエシソウン esisoun に訂正した。

(68) 松島氏によると、ヘプトットウ ワ ライ hepututu wa rayではなく、ライ ヘプトットウ ray hepututu と言うつもりであったという。

(69) 田村かず子『アイヌ語音声資料（1～6）語彙 上巻』早稲田大学語学教育研究所（1991）の anki の例文に「pus anki yak anki an.」があることをモニターに教示されて記した。

チスライパバ ⁽⁷⁰⁾ ヒネ	
cisurarayepa hine	上座を空けて、
アペ エトク タ モノ ア ワ アン	
apectok ta mono a wa an	上座にきちんと座っている
クニネ オピッタ キワ こんど	
kunine opitta ki wa KONDO	ようにしていて、
アペ エトク タ モノ ア アン	
ape etok ta mono a=an	上座に私は静かに座った。
ネ ビラトゥル カムイ サマケ タ	
ne Piratur kamuy samake ta	その平取の神様のそばに
アワ アナ、アナンペ アネーヒケー	
a wa (ana) an=an pe a=ne hike	座っていたところ
ビラトゥル カムイ カー ネヅカ	
Piratur kamuy ka nep ka	平取の神様も何も
ハウエアン カ ソモキノ アナイネ	
hawean ka somo ki no an ayne	言わずにいと、
オリパク カムイネ、ネクス キ アイーネ	
oripak kamuy ne, ne kusu ki ayne	恐れ多い神様なのでそうしていたが
タパン パセ カムイ ヌプル カムイ	
“tapan pase kamuy nupur kamuy	「偉大な神様よ、霊力の強き神様よ、
イタカン チキ エイス カトゥ エネアニー	
itak=an ciki e=inu katu ene an hi	私が言うことを聞いてください。
は一、タップ、タパン テワノ カムイ メノコー ⁽⁷¹⁾	
(HA tap,) tapan te wano kamuy menoko	この場所から、神様の奥様が
イケスイ ワ イサム ヤカイエ オラ	
ikesuy wa isam yak a=ye ora	家出してしまったと言われてから、
オリパク トウラ (咳払い) は一、	
oripak tura (HA)	かしこまって

(70) 松島氏によると、チスライパバではなく、チスライエバ *cisurarayepa* と言うつもり箇所であるというので、そのようにローマ字表記した。意味の説明では「家に入って来たピラトゥルカムイと少年を上座に座らせようと、気遣った神々が座をあけた」と述べた。単数形でチスライエ *cisuraraye* ということばを用いた時には、「うつむいていた人が顔を上げた時、顔の全面に垂れていた前髪を手で分ける動作」という主旨で説明された。満席時に座を空けて誰かを座らせようしたり、顔全面の垂れ下がった髪の毛を分けて視界を得ようしたりするなど、さっと空間を確保するような場合に用いているようである。

(71) 以下、メノコ *menoko* 「女」を文脈上「奥様」と日本語訳した。

オカアンペ アネ ヒケ は一、

oka=an pe a=ne hike HA,

カムイ メノコ イケスイ メノコ

kamuy menoko ikesuy menoko

オリ、オリパッ ワ オヤチキ

(ori,) oripak wa oyaciki

ホンコル ワ アニ エラムシカリノ

honkor wa an hi eramuskari no

(上田) ふーん。

私たちが暮らしていたところ、

神様の奥様、家を出た奥様が

慎み深くして、それまでは

妊娠していたことを知らずに

サモルン コタン コタン ノシキ ター

samorun kotan kotan noski ta

(上田) ふーん。

和人の村の真ん中で

アン ルウェネ、ワ いやー、

an ruwe ne, wa (IYA),

ピリカー カムイ ヘカチ ヤ、

pirka kamuy hekaci (ya)

ヤイコサンケ ワ エネ ホシピレー

yaykosanke wa ene hosipire

カムイー アヘコテ カムイ

“kamuy a=hekote kamuy

アコオリパッ は一、アコヤヤッテ クス

a=kooripak (HA,) a=koyayapte kusu

ホシピレ ワ エク セコル ネワ

hosipire wa ek” sekor ne wa

アトゥラワ エーカン ルウェネー セコル

a=tura wa ek=an ruwe ne” sekor

ハウエアナナクス⁽⁷²⁾ ソンノー

hawean akusu sonno

暮らして、

立派な神の子供を

産んで、このように帰らせました。

『私が仕えた神様を

尊敬し、自重しているので

子供を帰らせた』ということなので

私が連れて来たのです」と

言うと本当に

(72) ハウエアナナクス hawean akusu と言うべき箇所と筆者が判断して、ローマ字表記と日本語訳を行った。

ミナ カスネ⁽⁷³⁾ ミナー

mina kasune mina

大喜びした。

(上田) うーん。

エネ ヘポキキ ワ タネー

ene hepokiki wa tane

あのようにうつむいて、今 (まで)

ヤカンキ プサンキ アナー

yak anki pus anki an a

深刻な顔をしていた

カムイー ヘ ヘタク テクテク テネー

kamuy (he) hetaktektek te?? hine??

神様がさっと頭を上げて

イヌカラッ セコルー ソンノ

i=nukar a p sekor sonno

私をみたとたんに、とても

ミナカスネ ミナー コルー、はー、

mina kasune mima kor (HA,)

喜んで

アポホ エネ ハウエネ ヤクン

“a=poho e=ne hawe ne yakun

「私の息子であるというのなら

イサムン エーク セコル

i=sam un ek” sekor

私のそばへ来なさい」と

(上田) ふーん。

ハウエアンペ ネークス こんど

hawean pe ne kusu KONDO

言ったので

サマケ タ こんど アルパアンーネ したけー

samake ta KONDO arpa=an hine SITAKE

そばに私が行くと

エアリキナーネ イコムライパ

earkinne i=komuraypa

強く抱きしめられた。

チシ コル イコムライパ

cis kor i=komuraypa

泣きながら抱きしめられた。

アシヌマー ウェナンペー アネ

“asinuma wen=an pe a=ne

「私が悪かった

(73) 田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館 (1996) では「カスノ kasuno 【後副】 …より以上に、…にもまして。」とあるが、松島氏の場合は常にカスネ kasune と発音するのでその通りに表記した。

ルウェネ セコロ ハウエアン コロ
 ruwe ne” sekor hawean kor のだ」と言う
 イコムライパ アイネ (咳払い) こんど、はー、
 i=komuraypa ayne KONDO (HA,) 私を抱きしめたあげく
 タパン アシヌマ アナクネ
 “tapan asinuma anakne 「この私は
 タネ オンネッ アネッ ネクス
 tane onne p a=ne p ne kusu 今は年老いたので

(上田) ふーん。

カムイ リクン⁽⁷⁴⁾ オルン ニサッタネ
 kamuy rikun or un nisatta ne 神の世界へ明日になったら
 シマクッタ⁽⁷⁵⁾ アンペ アネー
 simakta?? an pe a=ne 身を引くつもりだ。
 カムイ オピッター ウウエカラパー だけど
 kamuy opitta uekarpa DAKEDO 神の全てが集まったけれども
 イ、イナングル タパンー モシリー
 (i) inan kur tapan mosir 誰にこの国を
 アコシッカシマレ ヤクン ピリカ ヤ
 a=kosikkasmare yakun pirka ya 託したらよいか
 セコル ヤイヌアン ワ エネ
 sekor yaynu=an wa ene と思って、このように
 ヘプトウトウアン ヘポキキアン
 hepututu=an hepokiki=an ふくれ面をして、うつむいて
 ケウトウム オッタ チサン コルー
 kewtum or ta cis=an kor 心の中で泣きながら
 アナナッ、い、いいあんばいに
 an=an a p, (I) II ANBAI NI いたのであったが丁度よく
 カムイ アサンテケヘー
 kamuy a=santekehe 私の世継ぎが

(74) 松島氏によると、「神の世界」をカムイ リクン kamuy rikun あるいはリクン カント rikun kanto 「高いところにある天」ということばで表す。

(75) 松島氏によると、シマクッタ simakta で「引退する」の意味であり、用例として、ニシャッタ クシマクッタ クスネ ナ nisatta ku=simakta kusu ne na 「明日、私は引退するつもりですよ」と言われた。

ヤナ ハウエ ネ ア ヤクン

yan a hawe ne a yakun

やって来たというのなら

タパンー ポロトー

tapan poro to

このポロトを

タパンー アコル ソ、ソントク メ

tapan a=kor (so) sontak (ME)

この自分の息子に

まかせるから、タパンー ペ

MAKASERU KARA tapan pe

任せるので、この者の

イタク ハウエ エ、エ、エヌーパ ワ

itak hawe (e, e) e=nupa wa

言うことを聞いて

ネヒ コラチ コタン エブンキネ

ne hi koraci kotan epunkine

このままに村を守る

エチキ ナンコンナー セコル

eci=ki nankor na” sekor

のだぞ」と

ミナ カスネ ミナ コルー

mina kasune mina kor

おおいに笑いながら

エヨロコンダロ コル

eyorokondaro kor

喜んで

(上田) ふーん。

ハウエアン ルウエネ はー、

hawean ruwe ne (HA,)

話したのであった。

レリコでも イ、イネトでもー トウラ

rerko DEMO (i) ine to DEMO tura

三日でも四日でも一緒に

アオナハー ネヤカイエー するもの

a=onaha ne yak a=ye SURUMONO

父親といわれる人と

トゥラ アナン、クス ネアテ

tura an=an kusu ne a p

一緒にいるつもりでいたのであるが、

エネ ニサッタネ シマクタ ハウエアン

ene nisatta ne simakta?? hawe an

明日になれば引退するのか

セコル イ ヤイスアン チサン コル

sekor (i) yaynu=an cis=an kor

と思って私は泣きながら

こんど (咳払い) モコルアン だもの

KONDO mokor=an DAMONO

寝ながら

エネ アラムヤイー はー、く、
 ene a=ramu a hi (HA, KU)
 シットゥムペケラクスー ネ アオナハ
 sirtumupeker akusu ne a=onaha
 ホヅニ イネー イワン コソソテ エパネレ⁽⁷⁶⁾
 hopuni hine iwan kosonte epanere
 イワン コソソテ エクッコル ヒネ
 iwan kosonte ekutkor hine

(上田) ふーん。

ソイネ ペネクスー オシ ソイネアンーネ
 soyne pe ne kusu os soyne=an hine
 こんど キアクス エアッキンーネ
 KONDO ki akusu earkinne
 イムライパ ワ チサ チサ チサ コロ
 i=muraypa wa cis a cis a cis a kor
 ピリカノ タパン ポロシリ
 “pirkano tapan porosir
 エエプンキネ ナンコンナー
 e=epunkine nankor na

(上田) う、うん。

アシヌマ アナクネ もう オンネアン
 asinuma anakne MOU onne=an
 ペネクス カムイ リクンさ、(咳払い)
 pe ne kusu kamuy rikun SA,
 アルパアン しないばないことに
 arpa=an SINAIBA NAI KOTO
 なってるんだから アルパアン ベ ネナー
 NATTERUN DAKARA arpa=an pe ne n

そのように思っていた時、
 夜が明けると私の父が
 起き上がって六枚の小袖を羽織り、
 六枚の小袖の帯を締めて

外に出たので後を追って私も外に出て
 行くと、とても強く
 私を抱きしめて泣きに泣いて
 「きちんとこのポロシリを
 お前が守っていくのだぞ。

(76) 田村すゞ子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館(1996年)にはオパネレ *opanere* 「…をはおる」とある。松島氏は同じ意味のことをエパネレ *epanere* と表現する。

イテキ チシノ はー、エエブンキネ

iteki cis no (HA) e=epunkine

ナンコンナー セコル ハウェアン

nankor na” sekor hawean

オラー シ ポラポラ アクス

ora siporapora akusu

ポロー チカッ ネ アン

poro cikap ne an

決して泣かないでここを守って

いくんだぞ」と言った。

それから手足をバタバタさせると

大きな鳥になった。

(上田) ほう。

ポロ チカッネ アンーネ こんど

poro cikap ne an hine KONDO

イクルカシケー オトゥルイ、オトゥスイ レスイ

i=kurkaske (oturusy) otususy resuy

カリカリー アイーネ ランケ スペー

karikari ayne ranke nupe

エ、エ、アット ネ アス…

(e, e) apto ne as

大きな鳥になって

私の頭上を二回も三回も

旋回すると落ちる涙が

雨になって降った。

(上田) ふーん。

はー、アット ニシクル ネー アンワ

(HA) apto niskur ne an wa

ソナーノ アルパ カ エアイカッノ

sonno arpa ka eaykap no

イキヤ イキヤ アイネ トオ

iki a iki a ayne too

オシムケ ワ イサム ルウェネ

osirmuke wa isam ruwe ne

オラー カムイ アオナハ セコル

ora “kamuy a=onaha” sekor

ハウェアナン コル パラパラクアン コル ふー、

hawean=an kor paraparak=an kor (HU)

雨雲になって

とても行きづらそうに

どうにかこうにかして、はるか遠くに

見えなくなりました。

それから「私のお父さん！」と

言って泣き喚きながら

ヤイ カルカルセレアン

yaykarkarsere=an

ホ、ホテヤテヤアン コロ キー

(ho) hoteyateya=an kor ki

カムイ ウタラ オビッタ ス、

kamuy utar opitta (su)

ウウォカルパ ワ ウウォカルパ

uwokarpa wa uwokarpa

ソイエンパ ヒネ イトモイタッ⁽⁷⁷⁾ ヒケ カ

soyenpa hine i=tom oytak hike ka

ソモ アヌノ ネ パラパラッアン コル

somo a=nu no ne parapararak=an kor

アナンペ アネー ヒケ

an=an pe a=ne hike

ピラトゥル カムイ ソイネ イネ こんど

Piratur kamuy soyne hine KONDO

マカナッ エイキ ハウエアン

“makanak e=iki hawean

オッカヨ ヘタブ エネ

okkayo hetap ene

エパラパラッ ヤッカー

e=parapararak yakka

エ オナハ ホシピー す、ルウェ も

e=onaha hosipi (SU) ruwe MO

ないんだから セコル ピラトゥル カムイ

NAINNDA KARA” sekar Piratur kamuy

タパン ポロト エエプンキネ

“tapan poro to e=epunkine

エイエ イタッ でないば…、

e=ye itak DE NAIBA…、

アヌ ソモキツ ネ ヒケ エネ

a=nu somo ki p ne hike ene

私は転がって

手足をばたつかせていた。

神々が皆

代る代る

外に出て私をなだめてくれても

それを聞かずに泣き喚いて

いたところ

平取の神様が外に出て来て

「どうしたというのか。

男とあろうものがこのように

泣き喚いても

お前の父親が帰って来ることは

ないのだぞ」と平取の神様が

「このポロトをお前が守り、

お前の言葉でなければ

聞かれないものなのに

(77) 当初、イトムイタッ i=tomytak と記していたが、モニターの指摘を受けて、松島氏に確認すると、イトモイタッ i=tom oytak と明確に発声したので訂正した。

ヘマンタ オッカヨ、オッカヨ ヘ
“hemanta (okkayo) okkayo he なぜ、男の
エネ ワ エネ エパラパラッ コル
e=ne wa ene e=paraparak kor お前がこのように泣き喚いて
エアン す、するんだって も、す、
e=an (SU) SURUNDA” TTE (MO SU) いるのか」と、
それこそ アイコパシロタ アイコサカヨカラ
SOREKOSO a=i=kopasrota a=i=kosakayokar とても激しく叱りつけられた。

(上田) ふーん。

オハイネ カネ セコロ ヤイヌアン ペネクス
ohayne kane sekor yaynu=an pe ne kusu そのとおりだと思ったので
こんど ヤイトモイタッアン ヒネ
KONDO yaytomoytak=an hine それを自分に言い聞かせて
アフナン ルウェネ アフナナクス
ahun=an ruwe ne ahun=an akusu 私が家に入ると
はー カムイ ウタラ オピッター
(HA) kamuy utar opitta 神々の皆が
イコオンカミ ロク イコオンカミ ロク コロ
i=koonkami rok i=koonkami rok kor 私に何度も拝礼すると
トオー アン、ウエスス、ウウェコホピ ウウェコホピ
too (an uesusu) uwekohopi uwekohopi 遠く四方八方に
コタン エブンキネ カムイ ウタラ
kotan epunkine kamuy utar 村を守る神々が
パイェパ ワ イサム
payepa wa isam 去ってしまった。

(上田) ふーん。

オカケタ ポロチセ オッタ
okake ta poro cise or ta その後は大きな家で
シネシーネ アナンペー
sinen ne an=an pe 一人で暮らしていたのだが、

ポロトー コロ カムイ アネ ルウエネクス

poro to kor kamuy a=ne ruwe ne kusu

は一、サモロンコタン ワ アウク、ア、アコル

(HA) “samorun kotan wa a=uk, (a) a=kor

ア、アセワ エカン ヤム ネナ

(a) a=se wa ek=an yam ne na

オヤコヤク タ アチャルパ ワ

oyakoyak ta a=carpa wa

ポロンノ オヤクタ ピラトゥッタ ネヤッカ

poronno oyakta Piratur ta ne yakka

ポロンノ ヤム オカ ルウエ

poronno yam oka ruwe

シサム ネヤッカ アイヌ ネヤッカ

sisam ne yakka aynu ne yakka

イテキー エヤイパタライエ、ライエノ

iteki eyaypatarayе no

エチエ ヤク ピリカナーって

eci=e yak pirka na” TTE

ポロト コール カムイ

poro kor kamuy

エブンキネ カムイ イソイタク

epunkine kamuy isoytak.

私はポロトの神になったので

「和人の国から受け取って

背負って来たクリなのである。

あちこちに私が蒔き散らして

たくさん、あちこちに平取でも

たくさんのクリがあるのだ。

和人もアイヌも

決して遠慮せずに

食べるがいいぞ」と

ポロトの神が、

守り神が物語った。

(上田) は一あーあーん。いーや…。

(松島) セコル ネワ sekor ne wa (ですって。)、ふっふふふ…。